

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:31人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30
(R4.3月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話:082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものである貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

令和4年度 自然再生協議会全国大会(沖縄県石垣市) 【報告者】会長 中越 信和

当初2022年10月に沖縄県石垣市で予定されていた全国大会は、悪天候のため延期となり2023年1月24日に変更になり実施された。主催は環境省で、場所は午前が現地視察(石西礁自然再生協議会:会長土屋誠の活動現場)、午後は竹富町役場(石垣本島に所在)だった。

今回対象となった自然再生地は石垣島と西表島の間に散在する島嶼を取り囲むサンゴ礁で、海水温上昇で起きるサンゴ礁の白化やオニヒトデによる食害によるサンゴ礁の劣化を食い止め消滅したサンゴ礁の再生を試みている場所である。

集合時に参加した全国20の協議会は3班に分けられていた。これは実務的な班分けであると同時に、集会の最後に予定されている意見交換のグループ分けでもあった。3つは①若い参加者を増やすための工夫、②様々な立場の団体が参入するメリットと課題解決について、③一般にむけた自然体験活動の実施の工夫と課題解決について、であった。私は②に配属されていた。

残念ながら、当日は強風の悪天候で午前予定されていたサンゴ礁の自然再生現場は視察できず急遽「国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター」での当該協議会の一員「八重山漁業協同組合サンゴ種苗生産部会」の活動報告の受講と再生に使うサンゴの見本などの見学となった。サンゴの種苗を見るのは初めてだった。相当苦労して飼育法を開発したとのことであった。もちろん世界初である。

午後は、予定通り竹富町役場での会議となった。まず、石西礁自然再生協議会から取り組み紹介があった。科学的な現況把握から自然再生手法を知ることができた。最終目的は一番古いサンゴ礁の写真資料のある昭和37年(1962年)の状態のサンゴ礁に戻すことであり、これも明快な目標と思われた。そして、協議会メンバーや関係者の並々ならぬ努力を知った。さすがに環境省から相当の助成金も取得しているのだから、うらやましいほど高額で頻繁な再生手法が実施されているのも事実である。国内最大のサンゴ礁の再生の成功を期待している。その他、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の活動報告、及び協議会の開設を準備している河北潟自然再生協議会(仮称)からの報告を受講した。

意見交換は先の3班に分かれて行い、それぞれ方策がまとめられた。各班からその報告があり、全体での討論が行われた。いずれも実現可能性のあるものであった。詳細を知りたい方は環境省のホームページで閲覧できるので、ご覧あれ。

これらの3テーマは明らかに当協議会にも関係するものである。①では北広島町の小・中学校にとどまっているので、県内全域となるよう努力したい。②では企業へのクレジット発行などを行う体制の整備が必要だろう。③は以前からの課題だが、パンフレット(かなりの協議会が作成)の作成・配布やマスコミの協力を得られるような努力が必要に思われた。



班別の討論会の様子(R5.1.24)